



南アルプス市
産業観光部 農政課 農業振興担当
主事

高野 翔太

Shota Takano



私は、令和7年4月に南アルプス市役所の事務職員として採用され、産業観光部農政課の農業振興担当に配属となりました。業務内容としては、中山間地域で農業を営む方へ農地の維持管理支援事業、南アルプス市の特産品のももやすももの生産拡大に向けた農地拡大の支援事業、近代化を進める農業者へ農業機械購入の補助事業、市民農園の管理事務です。

私の関わる業務の多くは農業に関連しており、近年は、耕作者の減少や高齢化が進行し、耕作者さんの声からも厳しい状況であることを知りました。私は、職員として、農業を営み、農地を管理してくださっている方の負担軽減や耕作環境の改善が図られるよう日々の業務に取り組んでいます。

採用 1 年目で知識、経験不足で勉強しながらの毎日ですが、担当の上司や年齢の近い先輩などから気軽な声掛けや指導をしていただけるため少しずつ成長できている実感があります。

職員として市民の生活の改善や維持及び向上に精進していくとともに一人前の社会人となるよう努力を怠らず日々の生活を充実させたいです。

市町村職員



中央市 未来戦略部
政策秘書課 秘書・広聴広報担当
主事

森本 恭平

Kyohei Morimoto



私は、令和7年度に中央市の職員として採用され、未来戦略部政策秘書課秘書・広聴広報担当に配属になりました。平成5年生まれの満31歳です。皆さんからは、「20代に見える」とうれしいお言葉をよくかけていただきます。（笑）

冗談はさておき、私が担当している業務内容は、市の広報紙の作成をメインに、市内の行事（保育園・小学校・中学校の学校イベント、市が中心となって開催するイベント）や各種表彰者の取材、ホームページの更新、SNSへの投稿などです。

入庁してまもないため、業務において学ばなければならないことがたくさんあり、日々刺激を感じながら業務にあたっています。また、取材などを通し、市民からの生の声、意見を聞き、より多くの市民の方々へタイムリーな情報の提供を行っていくべきであると感じています。

いち早く、業務を覚え、市民の方々の支えになれる職員を目指し、先輩職員の方々のご指導をいただきながら、成長できるようこれからも励んでいきたいと思っています。

身延町 福祉保健課 福祉担当
主事

望月 光瑛

Kouei Mochizuki



私は令和6年4月に身延町の職員として採用され、福祉保健課の福祉担当に配属となりました。

主に高齢者福祉に関する窓口業務や障害者の医療費助成に関する業務をしています。

仕事上、ご高齢の方や耳が聞こえない方などをお相手にして申請を受け付けたり、制度の内容を説明したりすることが多いです。そのため、難しい言葉をかみ砕いて簡単な言葉に変換したり、筆談の際は大きく丁寧な文字で書いたりするなど、相手の立場から見てどう説明したらわかりやすく理解してもらえるかを常に意識して、業務に取り組んでいます。

来客対応や電話対応では、不安を抱えて相談に来られる方が多いので大変なこともあります。しかし、住民の方から感謝されることも多いのでやりがいを持って仕事に取り組んでいます。

配属されて2年目となりますが「まだまだ未熟者である」と実感させられることが多いです。それでも町民の方々から信頼される職員となるために、初心を忘れず積極的に知識を吸収しながら、身延町に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

南部町 福祉保健課 健康増進係
保健師

諏訪 あす美

Asumi Suwa



私は令和6年4月に南部町の職員として採用され、福祉保健課に配属されました。

現在は健康増進係として母子・成人の健康に関する業務に携わっています。妊娠届の受理から、赤ちゃん訪問、乳幼児健診、健康診断関係、健康相談、健康教室など幅広い業務を行っています。

様々な状況に置かれている方々に必要な関わりをするということは、その人の生きてきた背景や考え方を理解することから始まります。支援に正解はなく、経験が少ないことから悩むことも多いですが、大変なことがあっても町民の方々の温かい人柄や周りの先輩方の助言が大きな支えになっています。そのため「地域を看護する」という保健師の素敵な役割に毎日心を弾ませながら活動することができています。

これからも現状に満足せず、やらなければならないこと・やりたいこと・できることを意識しながら日々の活動に励んでいきたいです。そして常に誰のための支援なのかを見失わずに、関わる全ての方がその人らしく生きることを支援していきたいです。

市町村振興協会たより

新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ及びクイックワン(9月発売回号))収益金について

新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ及びクイックワン(9月発売回号))の収益金については、全額を市町村に交付し、市町村の明るいまちづくりや住民福祉向上のための事業に活用されております。

■販売実績と収益金配分額

令和6年度のハロウィンジャンボ宝くじの販売実績は、前年度比9.77%減の約337億円となり、これに伴う山梨県への収益金配分額は、147,361千円(2.62%減)となりました。

前年度に比べ販売実績額は9.77%減少しましたが、配分額が2.62%の微減にとどまったことについては、販売実績から販売に係る固定費を引いた収益率が、前年度より上昇したことによるものです。

また、インターネット専用全国自治宝くじ「クイックワン」(9月発売回号)の販売実績は、約10億4千万円で、これに伴う山梨県への収益金配分額は274万円となり、両宝くじの収益金を合わせた150,103千円が、市町村交付金として、市町村に交付されました(表1参照)。

なお、市町村への交付に当たっては、均等割40%、人口割60%の配分基準により交付しております。

※均等割は都道府県への配分に係る市町村数の算定に応じて算出。

■交付金の使途

交付金の使途については、地方財政法第32条に定める事業に充てることとされており、令和6年度の県内市町村の使途については、芸術・文化振興、環境の保全・創造、少子・高齢化対策等に活用されています(表2参照)。

■令和7年度ハロウィンジャンボ宝くじ発売について

令和7年度は、1等前後賞合わせて5億円のハロウィンジャンボ宝くじ(発売総額360億円・12ユニット)及び1等前後賞合わせて5,000万円のハロウィンジャンボミニ(発売総額150億円・5ユニット)が10月19日(日)まで同時発売されています。

当協会では、市町村にとって貴重な財源でありますハロウィンジャンボ宝くじの販売額の確保に向け、市町村ホームページの有料バナー広告への掲載や新聞、ラジオ等のメディアを活用した広報、また、地元プロバスケットボールチーム・山梨クィーンビーズと連携したPR動画を、甲府駅南口「セレオビジョン」、イオンモール甲府昭和、市町村デジタルサイネージで放送等するなど、各種広報宣伝活動に努めて参りますので、引き続き宝くじの広報にご支援、ご協力をお願いいたします。

なお、宝くじの収益金は県内の販売実績等に応じて交付されるため、県内の売り場又は宝くじ公式サイトでお買い求めください。

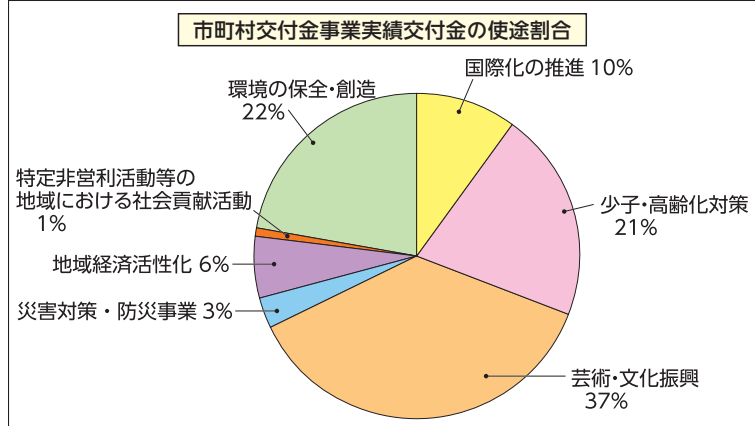
表1 令和6年度ハロウィンジャンボ宝くじ市町村交付金一覧表

単位：円

甲府市	23,331,000	市川三郷町	4,304,000
富士吉田市	6,805,000	早川町	1,753,000
都留市	5,080,000	身延町	3,648,000
大月市	4,134,000	南部町	2,738,000
韮崎市	4,863,000	富士川町	3,732,000
南アルプス市	10,913,000	昭和町	3,956,000
甲斐市	10,837,000	道志村	1,810,000
笛吹市	11,673,000	西桂町	2,080,000
北杜市	9,542,000	忍野村	2,658,000
上野原市	4,671,000	山中湖村	2,207,000
山梨市	6,388,000	鳴沢村	1,945,000
甲州市	5,921,000	富士河口湖町	5,576,000
中央市	6,141,000	小菅村	1,707,000
		丹波山村	1,690,000

市町村合計 150,103,000

表2 令和6年度ハロウィンジャンボ宝くじ市町村交付金(150,103千円)の使途



発売期間：9月19日(金)～10月19日(日) 抽せん日：10月28日(火)

宝くじ
公式サイトは
こちらから！





土橋 汰公磨さん

Takuma Dobashi

(市川三郷町 政策推進課 政策推進係 主任)

「地方創生伴走支援制度」の活用について



現在、市川三郷町では行財政改革の推進により公共施設の規模や事業の適正化を進め、財政健全化に向けた取り組みを進めています。一方でこうした取り組みが町の将来に悲観的なイメージを抱いてしまい、町内外に向けたシティプロモーションによるイメージアップが必要となっています。

そのため本町では、今年度新たに内閣官房が創設した「地方創生伴走支援制度」を活用し、シティプロモーションによる地域活性化に向けた事業を推進しています。

本制度は各府省庁の職員が職務経験等を活かし中小規模の自治体に寄り添った伴走支援を実施するもので、本町においては3名の支援官で伴走支援チームを編成し定期的なオンライン会議や現地訪問による支援を受けており、職員向けプロモーション研修の実施や移住定住制度を一元化したポータルサイトの整備を進めています。

今後は伴走支援で得た知識や繋がりを活かしつつ、効果的なシティプロモーションによる地域活性化や人口減少対策に取り組み、持続可能な市川三郷町の一助となるよう精進していきたいと思っています。

AFTER NOTES

編集後記

今回の特集は、「人口減少下における持続可能な行政サービスに向けて」をテーマに、人材確保やDXの活用、市町村連携などの取り組みを紹介するとともに、臨時トピックとして、本年4月に設立された「やまなしソーシャルイノベーションセンター」について掲載しました。

また、ハロウィンジャンボ宝くじの令和6年度の市町村交付金とその使途について報告しましたが、市町村のまちづくりや住民の福祉向上のための事業に活用されております。

今年のハロウィンジャンボ宝くじは、10月19日まで発売しておりますが、市町村にとって貴重な財源である本宝くじの販売増進が図られるよう、引き続きご協力をお願いします。

最後に、特集をはじめ各コーナー等本号の発行にあたり、ご多忙の中執筆いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

市町村職員情報誌「やまなし自治の風」編集委員会委員

役職名	団体名	課名 補職名	氏名
委員長	山梨県市長会	事務局長	村松 広幸
副委員長	身延町	企画政策課主事	高橋 倫
委員	大月市	企画財政課主事	紫村 亮斗
	上野原市	政策秘書課主任	須藤 桂伍
	山梨市	企画推進課課長補佐	有賀 秀樹
	甲州市	政策秘書課主査	北井 靖人
	中央市	政策秘書課主事	森本 恭平
	市川三郷町	総務課主任	芦沢 祐弥
	富士川町	政策秘書課副主査	荒居 祥太
	山中湖村	村未来政策課主査	高村 欣憲
	鳴沢村	企画課主幹	佐藤 映子
	山梨県	市町村振興課主事	田中 玲帆
	山梨県町村会	振興課主任	田中 義晃



**ハロウィン
ギャンボ**

5 億円

1等・前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

**ハロウィン
ギャンボミニ**

5 千万円

1等・前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞各1,000万円

当せんの
チャンス
広がる

パソコンや
スマホで
ネット購入!

QRコード

宝くじ公式サイト
<https://www.takarakuji-official.jp/>

発売期間
9月19日(金)~10月19日(日)

抽せん日
10月28日(火)

各1枚300円

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上のため
に使われます。

2025年新市町村振興宝くじ
(公財)山梨県市町村振興協会

宝くじは
山梨県内で
買ってね!!



ご当地クーちゃん
山梨県

ハロウィンギャンボ宝くじとハロウィンギャンボミニが、10月19日(日)まで2種類同時発売されています。

この宝くじの収益金は、県内の販売実績等に応じて配分され、山梨県市町村振興協会を通じて全額市町村へ交付され、市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。